

主要科目の特長・科目ごとの目標等

○人間総合学群

・人間文化学類

<日本文化専攻>

「日本語表現」

これまで培った日本語の能力を伸ばし、状況に応じて適切に使いこなす能力を修得することを目的とする。文や文章の組み立て、語句の意味、用法や表記などについての知識を再確認したうえで、語彙量を増やすとともに、様々なジャンルの文章を通して言語感覚を磨き、社会人としての言語生活を豊かなものにするための表現力を修得する。

「日本の文化と歴史」

現代の日本において継承され、変容しているさまざまな文化事象を学び、世界における日本文化の立脚点について俯瞰することを目的とする。海外から招来した異文化の受容と変容、あるいは長い歴史の中で育まれてきた日本特有の精神文化の特色などを観察し、有形・無形の文化遺産をテキストにして日本の文化の総括的な検証を行う。

「近現代文学(現代)」

第2次世界大戦後から現在までの小説について、世界の文学の中での日本の文学という観点から学ぶことを目的とする。代表的作家の諸作品の概要を理解したうえで、外国人が日本の小説をどのようにとらえているか考察していく。世界中で読まれている日本の現代の小説とはどのようなものなのか、自分なりの興味・関心をもって読んでいく姿勢を身につける。

「日本史Ⅰ(古代)」

日本の古代史を概説し、その歴史的な特質に関する基礎知識を修得することを目的とする。日本古代史に関する基本資料を通じて、奈良時代から平安時代までの政治、社会、信仰、生活、文化の実像について、東アジア世界との関係も視野に入れながら解説し、日本古代の歴史的な特質について理解する。あわせて、史料の読解力や多角的に歴史を考えるための力を身につける。

「日本文化史」

日本の文化や芸能に関する歴史を総合的に学び、日本人の文化・芸術・技芸に対する価値観や個々の文化事象について基礎知識を修得することを目的とする。古代から近現代に至る文化史を学びつつ、それぞれの時代における特徴を考察し、多様な芸能文化についても概観する。また、海外から評価されるさまざまな日本の文化や世界遺産などについても考察の範囲を広げ、社会人として理解しておくべき日本文化の諸相を広く学習する。

「日本文化ゼミ」

日本の文化に関して演習形式で調査・研究・報告を実施し、日本文化に関する基礎知識・専門知識を修得することを目的とする。日本の歴史・文化・文学・言語等を扱った諸文献を熟読し、履修者の希望する各分野について研究指導を行う。最終的には各自の研究内容を的確に論述できるまでを指導していく。また関連する現代日本の文化事象についても、必要に応じて鑑賞や体験学習などを実施する。

〈学類共通科目〉

「日本文化実習」

本実習は、茶道・華道等の日本を代表する伝統文化についての理解を深め、その意義を深く考察しつつ、作法や所作を実践的に身につけることを目的とする。具体的には、茶道や華道の歴史に関して講義を行うとともに、実際に茶道や華道の基本的な作法を実践する機会を設けて、日本の伝統文化や日本人の美意識や自然観の特質を体系的に理解できるように導く。

「プレゼンテーション実習Ⅰ」

研究発表のプレゼンテーションを念頭に置き、基本的な発表の技法を指導する。非言語的コミュニケーションの重要性、基本的な「語り」「話し方」のスキル、リサーチ情報の整理と提示の工夫、聴衆と状況に応じたプレゼンのスタイル、プレゼンテーション・ソフトの効果的な使い方、などを取り上げる。“人前で話すこと”への抵抗感を払拭し、自信をもって研究発表に臨めるようなマインドを修得させる。

「チャレンジ TOEIC」

自身のスキルアップのために TOEIC に挑戦しようと考えている学生を対象とした授業である。リーディングやリスニングに必要な語彙学習や文法学習を体系的に行うと共に、リーディング・リスニング活動を十分に行うことにより両技能の向上を図る。リーディングおよびリスニング問題の出題傾向から正答を導き出すための戦略を学び、問題演習を通して実践力を養う。各自目標を設定し、それに向けて学習し、目標達成を目指す。